

平成 1 0 年度試験研究成果

区分	普及	題名	平成11年度病害虫防除基準に採用した主な殺虫剤，殺菌剤		
[要約] 平成11年度の岩手県病害虫防除基準の改訂にともない、新規に採用した殺虫剤と殺菌剤および変更事項の概要を示した。					
キーワード	病害虫防除基準	改訂事項	殺虫、殺菌剤	生産環境部病害虫研究室	

1．背景とねらい

各作物において効率的な病害虫防除を行うため、新規剤を中心に防除効果および安全性などを検討し、次年度の病害虫防除基準に新たに掲載した新規採用剤および主な変更事項を示した。

2．技術の内容

主な新規採用剤は以下のとおり。作物ごとの改訂事項は別表参照。

(1) 水稻

ア．カーバメイト系殺虫剤に対する感受性の低下したイネクビボソハムシへの対応薬剤として、育苗箱施用のアドマイヤー箱粒剤、プリンス粒剤を新規採用した。

(2) イネ科牧草

ア．ムギダニの防除剤としてスミチオン乳剤を採用。マメ科牧草にも登録があり混播地でも使用可能である。

(3) 野菜

ア．きゅうりのうどんこ病防除にアミスター20フロアブル、ストロビーフロアブルを、ハウスきゅうりの灰色かび病、うどんこ病防除にフルピカくん煙剤をそれぞれ新規採用した。

イ．キャベツのコナガ等防除薬剤として新系統のアファーム乳剤の他、新規 I G R 剤、B T 剤を複数採用した。

ウ．ねぎの総合殺菌剤としてアミスター20フロアブルとストロビーフロアブルを採用した。

エ．地域特産物としてかぼちゃを加えた。

(4) 花き

ア．スターチス、トルコギキョウの灰色かび病防除にフルピカフロアブルを新規採用。

イ．地域特産作物としてチューリップを追加した。

(5) 果樹

ア．りんごのハダニ防除薬剤としてバロックフロアブル、コロマイト乳剤を新規採用した。

イ．りんごの斑点落葉病など主要病害にユニックスZ水和剤、ストロビードライフロアブルを新規採用した。

ウ．ぶどうのべと病と黒とう病にストロビードライフロアブルを採用した。

3．普及上の留意事項

改訂項目をもとに、地域の防除体系や防除暦編成の見直しを行う。

4．技術の適応地帯

県下全域

5．当該事項に係る試験研究課題

生産環境 4 - 2 - (5) - ア 農薬の作用性・機能の解明と実用化

6．参考文献・資料

7．試験成績の概要

表1 平成11年度病害虫防除基準に採用した主な農薬

農薬名	対象		使用方法	採用理由および使用上の留意点
	作物	病害虫名		
アドマイヤー箱粒剤 プリンス粒剤	稲	イネクビ ボソハムシ	時期：移植直前～移植期 使用量：50g / 箱	カーバメイト抵抗性虫に対する効果が高い。
スミチオン乳剤	イネ科牧草	ムギダニ	時期：生育期 倍率：1,000倍	被害拡大に伴う防除薬剤の登載。マメ科牧草混植地でも使用可能である。
ストロビーフロアブル	きゅうり	うどんこ病	時期：収穫前日まで 倍率：3,000倍	新規系統の薬剤で、スペクトルが広く、総合殺菌剤としての利用価値が高い。
アミスター20フロアブル			時期：収穫前日まで 倍率：2,000倍	
アフーム乳剤	キャベツ	コナガ, ヨトウガ アオムシ	時期：収穫7日前まで 倍率：2,000倍	新規系統薬剤で抵抗性コナガの防除効果も高い。 従来のIGR剤より安価（約2/3）である。 従来のBT剤よりヨトウガに対する効果が高く、水に易溶性である。
マッチ乳剤			時期：収穫7日前まで 倍率：3,000倍	
ゼンターリ顆粒水和剤			時期：収穫7日前まで 倍率：2,000倍	
デルフィン顆粒水和剤			時期：収穫7日前まで 倍率：1,000倍	
エスマルクDF バイウォッシュフロアブル		コナガ アオムシ	時期：収穫7日前まで 倍率：1,000倍	従来BT剤と同等以上の防除効果があり、水に易溶性である。
ストロビーフロアブル	ねぎ	さび病、 黒斑病	時期：収穫7日前まで 倍率：2,000倍	新規系統の薬剤で、スペクトルが広く、総合殺菌剤としての利用価値が高い。
アミスター20フロアブル			さび病 時期：収穫3日前まで 倍率：2,000倍	
ユニックスZ水和剤	りんご	斑点落葉病他	時期：6月下旬 倍率：500倍	新規系統の薬剤と既存剤との混合剤。 新規系統の薬剤で、総合殺菌剤として採用。 新規系統の殺ダニ剤。殺成虫効果はないので、多発時には使用しない。 新規系統の殺ダニ剤。展着剤の種類により薬害が生じるので混用しない。
ストロビードライフフロアブル			時期：8月上旬、9月上旬～中旬 倍率：2,000倍	
バロックフロアブル			時期：6月下旬～7月下旬 倍率：2,000倍	
コロマイト乳剤			方法：8月上旬～下旬 倍率：1,000倍	
ストロビードライフフロアブル	ぶどう	べと病、 黒とう病	時期：7月上旬(露地) 落花直後(ハウス) 倍率：2,000倍	新規系統の薬剤で、対象病害に対する効果が高い